



2024年10月23日

配信先：京都大学記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、
文部科学省記者クラブ、環境省記者クラブ、環境記者会、
農政クラブ、農林記者会、科学記者会

総合地球環境学研究所 メディア懇談会実施のお知らせ

平素より総合地球環境学研究所(地球研)の研究活動にご理解を賜り、ありがとうございます。

さて、地球研では、報道関係者のみなさまへ向けて、地球研の最新の研究活動をご紹介するメディア懇談会を2024年度は2回実施することといたしました。1回目となる今回、実地とオンラインのハイブリットで実施します。実地でご参加の方には、会終了後に、発表に関連して、実験施設の見学や与論島の古写真の展示、プロジェクションマッピングの体験を企画しております。また、11月3日(日・祝日)のオープンハウスから展示を開始する「みんなでつくろう!地球展」もご覧いただけます。発表者を交えた懇親の時間も設けております。是非ご参加くださいますようお願いいたします。

記

2024年度第1回 地球研メディア懇談会



日時：2024年11月8日(金)15:00~17:00(オンラインは16:00まで)

実施方法：総合地球環境学研究所(京都市北区上賀茂本山457-4) 講演室 および オンライン
※ご来場は公共交通機関をご利用ください。

申込方法：【地球研講演室で参加】

所属、お名前をメールにてお知らせください。地球研広報室 kikaku@chikyu.ac.jp

【オンライン(zoom)で参加】

下記URL(右上QRコード)よりご登録ください。

<https://us02web.zoom.us/join/register/tZwvd-mppzsvHtyRyXVf2ywmpnN4T7JQdfs0>

※要事前申込。当日申込も可。

【プログラム】

15:00 開会・あいさつ(地球研の主なトピックス紹介) 陀安 一郎 副所長

15:10 陀安 一郎 副所長より話題提供

『「同位体地図」から見る人間の資源利用』

15:30 質疑応答

15:35 新城 竜一 プロジェクトリーダー、高橋 そよ 准教授(LINKAGEプロジェクト)より話題提供

『サンゴの白化現象とリンの関係に迫る 課題解決に向けた島の人々との対話』

15:55 質疑応答 ※オンライン配信はここまで

16:00 実験室見学(陀安副所長により同位体分析装置などご案内いたします。)

16:20 展示物見学・歓談

17:00 終了



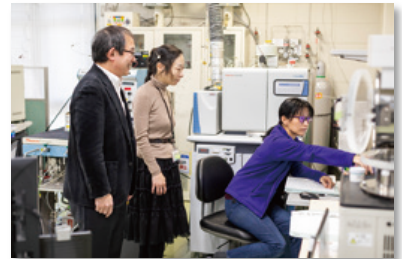
【発表概要】

■ 『「同位体地図」から見る人間の資源利用』

11月20日(水)にハートンホテル京都(地下鉄烏丸御池駅徒歩2分)で開催する国際シンポジウム「同位体と考古学: 新大陸と日本の事例からみた人とモノの動き」(シンポジウムは英語。日本語同時通訳あり)のポイントをご紹介します。

同位体分析は、自然科学の手法として物質の由来や資源の利用についての情報を与えてくれます。近年、同位体情報を地図上にマッピングした同位体地図(Isoscape)を用いた、人類の移動履歴や遺物の産地同定の研究が進んでいます。本国際シンポジウムは、特にこの研究手法の発展が著しい中南米での研究事例を紹介していただき、本手法が考古学の研究にどのような知見を与えるのかについて情報交換します。また、日本における研究を紹介し、総合討論では日本における研究展望について議論したいと考えています。

発表終了後には、現地参加の皆様を同位体分析などの実験室へご案内します。



実験室の様子

※ シンポジウム詳細 <https://www.chikyu.ac.jp/rihn/events/detail/220/>
取材のお申込みは、広報室(kikaku@chikyu.ac.jp)へご連絡ください。



陀安 一郎 (たやす いちろう) プロフィール

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士(理学)。日本学術振興会特別研究員・海外特別研究員、総合地球環境学研究所助手、京都大学生態学研究センター助教授・准教授を経て、総合地球環境学研究所基盤研究部教授。2022年より同副所長。

■ 『サンゴの白化現象とリンの関係に迫る 課題解決に向けた島の人々との対話』

今年、石垣島と西表島との間に広がる国内最大のサンゴ礁「石西礁湖」では、サンゴ群体の84%に「白化現象」が起きました。サンゴの白化は海水温の上昇が直接的な要因として知られていますが、私達は、海底底質の蓄積リン濃度のマッピングを行い、サンゴの被度や白化度との関係性を初めて示しました。また、与論島では島内外の多様な方々と「島の自然と暮らしを考えるゆんぬ古写真調査」を協働で実施しています。現在、地域から5000点超の写真が収集され、多世代との島の過去を学び、語り合い、未来を考える場づくりを継続的に行っています。さらに、研究成果を可視化するため、プロジェクション・マッピングを活用し、課題解決に向けた地域対話を行っています。

メディア懇談会の会場では、与論島の古写真や沖縄島南部地域と与論島での研究成果を表示したプロジェクション・マッピングをご覧いただけます。



与論島での「働く」をテーマにした古写真展ポスター



※ LINKAGE プロジェクト(陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンス:サンゴ礁島嶼系での展開):

<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/8/>



新城 竜一 (しんじょう りゅういち) プロフィール

専門は地質学・岩石鉱物学・同位体地球化学。琉球列島や沖縄トラフ、東アフリカ大地溝帯などをフィールドとして、マグマとテクトニクス・海底熱水系・地下水・サンゴ礁古環境解析など多様なテーマに取り組んできた。

高橋 そよ (たかはし そよ) プロフィール

琉球大学人文社会学部准教授。専門は生態人類学、環境民俗学。島をフィールドとした人間と自然との関わりに関する研究に憧れて、沖縄・伊良部島の素潜り漁師に弟子入り。動植物の国際取引をモニタリングする国際 NGO などの社会と研究をつなげる仕事を経て、2019 年より現職。地域の方々と一緒にサンゴ礁漁撈文化の記録と継承に取り組んでいる。

【取材申し込み及び問合せ先】

総合地球環境学研究所(地球研)

広報室 岡田、柴田、松本

Email: kikaku@chikyu.ac.jp

Tel: 075-707-2128、2482